

ササカワ・アフリカ財団
Sasakawa Africa Association

新5カ年事業戦略

2021-2025



序文

ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、設立当初より、事業戦略に基づいた活動を展開してきました。策定された戦略は、活動の主な方向性を定める重要な役割を果たしています。1980年代に策定された最初の事業戦略は、トウモロコシの増産を目的に改良技術を導入し、研修を受けた農業普及員がその技術を農家に広めていくというものでした。この戦略は10年以上にわたり実施され、大きな成果を収めました。その後、食料増産は活動を中心に据えつつも、アフリカ農業の複雑な課題に対応するため、随時戦略の見直しを行い、新たな課題に取り組んできました。

現在の活動重点国であるエチオピア、ウガンダ、ナイジェリア、マリにおいては、生産量の増加と貧困削減に大きく貢献してきました。しかし、サブサハラ・アフリカの最近の傾向を見ますと、一人当たりの食料生産量は減少し続け、貧困レベルは数年間の減少の後、上昇しており、予測困難な気象現象が農家を苦しめていることが分かります。このような状況は、新型コロナウイルスの感染拡大によりさらに悪化しており、効果的な支援が急務となっています。SAAは、アフリカの農家が「増加する食料需要を満たすため栄養価の高い食料を生産する」という目標を達成できるよう、今後5年間を見据えた新たな事業戦略策定に着手しました。

SAAは、35年の歴史で蓄積した知識と経験を活かし、新たな課題に総力を挙げて取り組んでいきます。SAAは、適切な農業投入財（種子・肥料等）と適切な圃場管理を行えば、アフリカの多くの国で作物生産を増加させることができることを実証してきました。しかし、生産の増加は、農家が余剰作物を市場で販売できて初めて、成り立つものです。これを踏まえ、SAAの新たな戦略は、3つの分野に重点を置いています。（1）生産性向上のため健全な土壌管理に配慮した強靱かつ持続的な環境再生型農業、（2）生物学的栄養強化作物および栄養価の高い地場野菜導入による栄養に配慮した農業、（3）食料安全保障と生計向上のためビジネスとしての農業を可能にする市場志向型農業です。SAAは、農家や起業家と密接に連携し、これら3つの重点分野に取り組み、各分野で新しいソリューションを共創します。

新事業戦略策定にあたっては、組織内外のステークホルダーの皆様から、SAAの強みと弱み、将来の展望と直面しうるリスクなどの意見を拝聴し、幅広く協議を重ねてきました。新事業戦略は、SAAの新しいビジョンとミッションを反映し、今後5年間で目指すべき目標を設定しています。

新事業戦略は、SAAのロードマップです。関係者の信頼を高め、技術的・経営的支援を確保するとともに、農業普及活動においてインパクトを生み出すことを目的としています。また、SAAの活動は、気候変動などあらゆる環境変化に左右されることを認識し、柔軟性と適応力をもって対応する所存です。

本事業戦略の策定プロセスは、パンデミック状況下の制約があるなか、2020年6月半ばに開始されました。3回のオンラインワークショップと、SAAスタッフと経営陣の積極的な参加により成し遂げられました。SAAの理事、特に本事業戦略策定を主導し、スタッフとステークホルダーの賛同を集め、戦略策定を遂行されたアミット・ロイ副会長に感謝の意を表します。

北中 真人
理事長
ササカワ・アフリカ財団

目次

序文		重点分野	10
SAA 新事業戦略の概要	1	重点分野 1：環境再生型農業	10
新事業戦略の背景	1	コラム「環境再生型農業」	10
ビジョンとミッション	1	重点分野 2：栄養に配慮した農業	11
重点分野	1	重点分野 3：市場志向型農業	12
環境再生型農業	1	SAA 現地からの声：ナイジェリア	13
栄養に配慮した農業	2	アプローチ	14
市場志向型農業	2	戦略アプローチ 1：知識の創出	14
戦略アプローチ	2	戦略アプローチ 2：知識のパッケージ化	14
知識の創出	2	戦略アプローチ 3：知識の移転と導入	15
知識のパッケージ化	2	コラム「農家と歩み続けて」	15
コラム「SAFEの組織統合」	2	ソーシャル・フランチャイズ	16
知識の移転と導入	3	コラム「ソーシャル・フランチャイズ」	16
分野横断的な課題	3	SAA 現地からの声：マリ	17
インパクト評価とコミュニケーション	3	横断的分野	18
SAA 新事業戦略の背景	3	パートナーシップの拡大	18
食料不足	3	女性、若者、障がい者	19
飢餓と栄養不良	4	インパクト評価とコミュニケーション	20
気候変動と土壌劣化	5	モニタリングと評価	20
改良技術の普及	5	資源動員	21
新型コロナウイルス感染症パンデミック	5	コミュニケーション戦略	21
商業的・魅力的な農業を目指して	6	SAAの歩みと活動実績	21
女性、若者、障がい者	6	SAAの歴史	22
SAAと持続可能な開発目標(SDGs)	7	SAAの活動実績	22
ビジョンとミッション	7	SAAのバリュー	23
ビジョン	7	参考文献	23
ミッション	8	略語	24
SAA 現地からの声：ウガンダ	9	連絡先	

SAA新事業戦略の概要

新事業戦略の背景

アフリカの食料増産は、既存の農地で収穫量増加が可能であったアジアとは対照に、主に森林伐採により低い収穫量の耕作地を拡大することによってもたらされました。土壌肥沃度と生産性の低さがアフリカ農業低迷の一因ですが、気候変動が及ぼす影響も加わり、状況はさらに悪化すると予想されます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う世界的な健康と食料不安により、アフリカの大部分の地域では、食料不安がより深刻になっています。2億5千万人以上のアフリカ人、特に脆弱な農業地域に暮らす人々に十分な食料を供給することが切実な課題です。

深刻化する食料不安や気候変動に対応するため、SAAは環境再生可能で、栄養に配慮し、市場志向型の農業を活動の中心に据え、アフリカの強靱かつ持続可能なフードシステムの構築に貢献することを目指しています。新事業戦略を効果的に実施し、アフリカの小規模農家の3つの安全保障（食料・栄養・所得）を実現させることを目標としています。

ビジョンとミッション

新事業戦略のビジョンは、食料生産者や仲介業者の視点を取り入れることで、「アフリカが強靱かつ持続可能なフードシステムを構築できるよう支援する」ことです。支援にあたっては、消費者の健康、栄養、食料ロス、環境保全など、さまざまなテーマに取り組んでいきます。このビジョンは、「アフリカの農家の知識・情報共有を促進し、コミュニティにおける食料、栄養、所得の確保を可能にする」というミッションを通じて実現を目指します。また、このミッションを達成するため、環境再生型農業、栄養に配慮した農業、市場志向型農業の推進に戦略的に取り組んでいきます。

重点分野

環境再生型農業

SAAは、環境再生型農業（Regenerative Agriculture）を支援の柱とし、アフリカの農村環境の保全および回復に向けた生態学的アプローチを主流化し、持続的な農業集約化を実現していきます。健全な土壌管理を促す環境再生型農業を主軸に活動することで、肥料などの農業投入財を最適に使用し、単位面積当たりの農業生産性を向上させます。また、土壌中の有機物含量を増大させ、大気中への二酸化炭素放出を抑え、気候変動を緩和することを目指します。

栄養に配慮した農業

栄養不良は幼児期の発達に悪影響を及ぼすことが証明されており、SAAは、アフリカ農村部における栄養状態の改善に一層力を入れていきます。小規模農家による栄養価の高い作物の栽培を支援するとともに、伝統的に家族の健康を守る立場にある女性が、栄養の重要性を十分理解できるよう取り組みます。さらに、SAAの提携大学では、栄養関連の授業を農業普及プログラムのカリキュラムに組み込むことで、これまで「保健」領域として捉えられ、見落とされてきた「栄養」という観点を、農業にもたらしめます。

市場志向型農業

SAAは、小規模農家がビジネスを意識した農業ができるよう、つまり「作ってから売る」ではなく「売のために作る」ことができるよう働きかけていきます。また、国際協力機構（JICA）が開発したSHEPアプローチを採用することで、農民の起業家精神を養うとともに、市場動向に基づいた生産計画を立てるなど、ビジネスにおける能力向上を支援していきます。

戦略アプローチ

知識の創造

農家や起業家とのパートナーシップを通じて、ビジネス志向の農業を推進するための技術や方法論を共創します。

知識のパッケージ化

農家のニーズに応じた柔軟な技術パッケージの導入により、「作物中心」から「農家中心」の農業普及モデルに切り替えていきます。既存の改良技術移転モデルを発展させ、コミュニティのニーズに基づく農業普及モデルに変革していきます。

コラム「SAFEの組織統合」

笹川アフリカ農業普及教育基金（SAFE）は、2018年にササカワ・アフリカ財団（SAA）に組織統合され、当財団の人材育成事業となりました。SAFEは、大学などのアフリカの高等教育機関が農業開発プロセスに参画する架け橋であり、現場の最前線にいる中堅農業普及員が既存の知識や技術を学士号レベルまでブラッシュアップさせるためのプログラムです。

SAFEは、中堅農業普及員に専門的な資格を与えるため、ノーマン・ボーローグ博士の呼びかけにより1994年に設立されました。SAFEは、SAA事業全体の中で最も成功した能力開発プログラムです。

当初は、ヨーロッパの大学などで、優れた農業普及員に与える資格として検討されていましたが、アフリカの大学の農業カリキュラムを改善・普及するという目的に変更され、アフリカ各国で展開されました。その後、地域の農業コミュニティの課題解決を目的に行われる「事業改善プロジェクト（SEP）」と呼ばれる実践研究も加わり、学生のフィールドワークの要素が強くなりました。SAFE提携大学の学部長、講師、スタッフは、アフリカ農業の様々な課題に対応するため、積極的にカリキュラムの見直しを行っています。

SAFEプログラムの成果は広く認められ、現在、アフリカ11か国の30の大学や単科大学で実施されています。これまでに、9,000人以上の普及員がこのプログラムを卒業（卒業見込みも含む）しました。SAFEを通じて新たな資格を得た卒業生の多くが自国の農業開発に大いに貢献しています。

知識の移転と導入

SAAは、農業普及活動の更なる効率化を図るため、農家とその関係者間の情報交換をサポートする「e-エクステンション・プラットフォーム」を立ち上げました。これは、新型コロナウイルスの蔓延だけでなく、終息後においても、農業普及活動を加速させる有効な手段です。

分野横断的な課題

SAAは、デジタル技術を組み合わせた農業普及の強化や、女性と若者をプロモーターとして雇用するフランチャイズ型普及サービスの導入を支援します。

インパクト評価とコミュニケーション

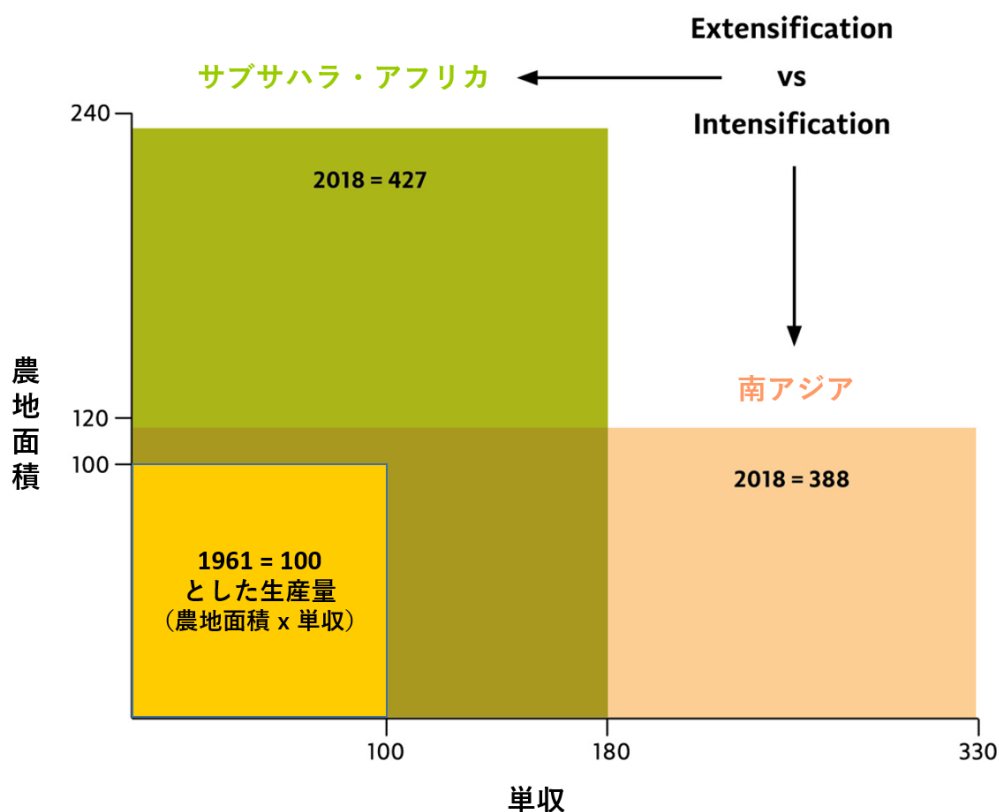
SAAは、モニタリングと評価を強化することで、活動のインパクトを定量化し、ソーシャルメディア・出版物・e-プラットフォームなどを通して、すべてのステークホルダーに成果を共有します。

SAA新事業戦略の背景

食料不足

人口増加による食料需要の拡大、消費パターンの変化に伴い、アフリカの農業は、生産性の低さ、土壌の肥沃度低下、水不足、収穫後の損失、小規模農家の限られた市場アクセス、気候変動など、多くの課題に対処する必要があります。

サブサハラ・アフリカでの生産量の増加は土地の拡大（**extensification**）によるものであるのに対し、南アジアでの生産量の増加は単位面積当たりの収量の増加（**intensification**）によるものである



今後30年間で、サブサハラ・アフリカの人口は24億人と現在の2倍以上になると推定され、少数の農業従事者（30%）が大多数の都市部居住者（60%）に食料を提供することになります。現在、アフリカ農業を支える小規模農家の生産は、増加する人口需要に追いついていません。大陸の食料輸入額は年間350億ドルに達し、2050年までに3倍以上になると予想されています。

アフリカの食料生産は、世界の他地域と比べ相対的に単収が少ないため、主に森林や野生生物の生息地を開墾し農地面積を拡大することで増産してきました。しかし、このような農業生産の拡大は、土壌の肥沃度が徐々に低下していくことと相まって制約されています。気候変動がもたらす干ばつや洪水などの異常気象や、肥料の使用率が世界平均の15%程度と限られた条件であることも土壌肥沃度に影響しています。その結果、アフリカは世界で最も食料不安のある地域となっており、2億5000万人以上が栄養不良に陥る恐れがあります。

飢餓と栄養不良

栄養不良が深刻化し、それに伴う経済的・社会的コストの増大により、従来の健康に関する支援に加え、食料と農業両方に焦点を当てた開発アジェンダ、つまり、栄養改善のためのマルチセクターアプローチが必要です。農業は近年、持続可能な開発目標（SDGs）をはじめ様々な宣言や公約により世界的に前進してきました。「栄養に配慮した農業」「フードシステム」などの概念が生まれ、国際的に普及しています。また、農業団体は、フードバリューチェーンのあらゆる段階において、安全で栄養価の高い食料の需要と供給を目指し、取り組みを進めています。

アフリカは、栄養不足蔓延率が世界で最も高く、栄養不良人口が世界で2番目に多い地域で、効果的な対策が急務です。さらに、気候変動や情勢不安が続く場合、2030年までに栄養不良人口が世界で最も多くなる可能性があります。

また、食料を購入するための費用にも注目する必要があります。何百万人ものアフリカ人が飢餓、食料不安、栄養不良に苦しんでいる原因として、健康的な食生活を送るための資金を十分持っていないことが挙げられます。この問題は、新型コロナウイルス感染拡大や気候変動による経済的影響により更に悪化しています。このため、特に脆弱な子どもたちの栄養不良を改善するためには、栄養価の高い食品を入手できるだけでなく、食費も含め健康的な食生活全般に注目し支援しなければなりません。

新型コロナウイルス感染症が終息した暁には、SDGs「飢餓をゼロに」という野心的な目標達成に向け、世界のフードシステム安定化のために、特に食料不足の国々で、アクションを加速させる必要があります。

気候変動と土壌劣化

気候変動や災害は、今や避けては通れない問題です。食料・栄養・収入の安定、持続可能な天然資源管理は、小規模農家の生活のあらゆる面において多大な影響を及ぼします。気候変動や災害に伴うリスクを上手く管理していくには、多方面からの総合的な解決策が必要です。

農業ステークホルダーは、気候変動の影響に関する理解を深め、強靱なバリューチェーンを構築し、適切な適応策、緩和策、アクションを準備しておく必要があります。同時に、アフリカの農業生産性低下の主な原因である土壌劣化（侵食により土壌の栄養分や有機物が減少すること）について広く認識する必要があります。

食料需要の増加、気候変動、土壌の肥沃度や水資源の減少により、農業システムには、これまでにない負荷がかかっています。急速な都市化、所得の増加、消費者の嗜好の変化なども影響し、既存の農業システムに抜本的な改革が必要な時期が来ています。

改良農業技術の普及

気候変動に対応した作物と作物品種は、小規模農家の農業に役立つと推奨されているにも関わらず、その導入は農家が置かれている状況により大きく左右されます。Acevedoら（2020）によると、過去30年間に低・中所得国で採用された作物・作物品種は、干ばつ、暑さ、洪水、塩害などの非生物的ストレスに対応するためのものでした。気候変動に対応した作物の導入を決定する一番の要因は、農業普及アドバイザーサービスの利用、次いで世帯主の教育レベル、農業投入財（特に種子と肥料）の入手状況、農家の社会経済的地位が挙げられました。そして、気候変動に対応した作物品種の使用を決定する要因は、性別、配偶者の有無、民族などの社会的差異によるものでした。

新型コロナウイルス感染症パンデミック

新型コロナウイルス感染症の大流行により、農業バリューチェーン全体において課題は深刻さを増しています。アフリカの脆弱な農民は困窮し、健康的で栄養豊富な食生活への支援が急務となっています。

国境の閉鎖や農業投入財へのアクセス悪化により食料サプライチェーンが機能せず、食料不足とそれに伴う価格高騰が発生しています（平時でさえ市場に在庫を置き、農家に種子や肥料などの投入財を提供するのに苦労している状況）。

また、アフリカの多くの国でロックダウンが行われたため、予定通りに収穫や食品の梱包ができず、農業普及サービスの中断により、農民や農業普及員の能力向上が制限されました。さらに、大学など教育機関の閉鎖は、教育や食料・栄養の安全保障に長期的な影響を及ぼしかねません。しかし、パンデミックの影響でオンライン教育が普及し、デジタル技術を駆使した農業普及活動が加速している点は、評価することができます。

商業的・魅力的な農業を目指して

2020年にアフリカ連合が農業の変革を呼びかけているにも関わらず、包括的アフリカ農業開発プログラム（CAADP）のマラボ宣言における飢餓撲滅のための投資に関するコミットメント（公共事業予算の10%を農業セクターに分配する）を達成しているのはウガンダだけです。農業を通じた貧困撲滅に関するコミットメントは、モロッコ、チュニジア、マリ、ガーナ、リベリア、アイボリーコースト、ベニン、ルワンダ、ブルンジによって達成されました。

農業をビジネスとして推進することは、起業家にとって新たなチャンスを掴む機会となりえます。SAAは、特に女性や若者が農業分野で活躍できる環境を整え、農業が魅力あふれる職業になるよう支援します。

女性、若者、障がい者

貧困や食料不安、栄養不良などの課題を抱える一方、アフリカの女性は、農業生産やマーケティングにおいて重要な役割を果たしてきました。しかし、女性が農業バリューチェーンに参加し、利益を得る機会は限られており、SAAでは、農業普及システムへの女性の参加という先駆的な取り組みを行ってきました。また、女性や若者を活動に参加させることで、雇用や利益配分をより平等にすることも目指しています。

農業における持続可能な雇用創出は、農村部から都市部への若者の移動に起因する社会/政治不安を軽減するという点においても重要です。労働集約型産業である農業は、若者の潜在能力を引き出し、活躍の場とすることで、若者に安定した雇用を提供することができます。これらの雇用は、農業バリューチェーン全体で創出することが可能です。若者が農業に参加するためには、小規模農家がそれぞれ、収益性の高いビジネスとして農業を発展させることが鍵となります。

貧困の撲滅は、開発政策のあらゆる側面において、障がい者の権利とニーズに取り組むことなしには達成されません。彼らの権利を保護、促進する効果的な法律がないために、差別を受けることがあり、あらゆる側面において障がい者の権利を組み入れる必要があります。

SAAと持続可能な開発目標（SDGs）

SDGsは、貧困の削減と地球環境の持続可能性の向上を目的とし、国連が定めた17の目標で構成されています。SAAは、活動を通して、以下8つの目標達成に貢献します。

目標1: あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。

目標2: 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。

SAAの優先目標です。生産性を向上、収量格差を解消し、人口増加に対応できる十分かつ栄養価の高い食料を提供するとともに、市場との連携を強化し、世帯収入を向上させます。

目標4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

目標5: ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。

目標8: すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する。

目標12: 持続可能な消費と生産のパターンを確保する。

SAAは、技術的な支援により、収穫後ロスを削減します。

目標13: 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。

SAAは、排出量を規制し、再生可能エネルギーの開発を促進します。

目標17: 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

ビジョンとミッション

ビジョン:

強靱かつ持続可能なフードシステムを目指すアフリカを支援します

これまで農業分野における国際協力は、食料安全保障を推進する手段として、生産量の増加に重点が置かれてきました。つまり、生産者である農家は、バリューチェーンの強化（特に単収増加）に焦点を当ててきました。

しかし、単収増加のアプローチでは、必ずしも地域の食料需要を満たすことができず、多くの国が輸入により食料不足を補っている状況です。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大により、食料輸出国が自国民への食料供給を優先して出荷を削減、ロックダウンにより輸送能力が低下したため、輸入さえも困難になりました。

今回のパンデミックにより、消費者の健康、栄養、環境基準を満たす安全な食品を供給する「フードシステム」の脆弱性が浮き彫りになりました。2021年9月にニューヨークで開催された国連食料システムサミットでは、持続可能なフードシステムへの転換が求められました。国・地域レベルでフードシステムを安定させるため、あらゆるステークホルダーの参画による国際的な農業協力が期待されています。

SAAは、アフリカが強靭かつ持続可能なフードシステムを構築できるよう全力で貢献します。「アフリカがアフリカを養う」という目標を掲げ、アフリカの小規模農家が食料、所得、栄養の安全保障を完全に達成できるよう支援していきます。

ミッション:

アフリカの農家との知識・情報共有を促進することで、コミュニティにおける食料、栄養、所得の確保を可能にします

SAAは小規模農家へ知識・情報を伝達し、改良農業技術の導入を促進することで、アフリカのコミュニティにおける食料・栄養安全保障を実現します。

農業を軸とした経済成長を促進し、主要な農産物の生産性と生産量の向上を継続して目指していきます。バリューチェーン・アプローチを採用し、食料生産、所得・栄養の安全保障を強化、気候変動に伴うリスクを低減することで達成を可能にします。また、知識・情報の伝達に関しては、農業省、SAA、公的研究機関、半官半民の事業者などが運営する農業普及システムを通じて行います。多くのステークホルダーが関与するため、それぞれの役割と責任を明確にし、かつ柔軟に対応することが必要です。

さらに、情報通信技術（ICT）と戦略的なパートナーシップを活用することで、農業普及モデルを強化するとともに、農業普及員や小規模農家に知識・情報をより迅速に共有していきます。SAAの活動エリア外では、大学や公的な普及サービスと連携することにより、栄養価の高い食品に持続的にアクセスできるよう支援します。

SAAは、生産性向上のための栽培技術、気候変動対策に優れた農法、食品の品質向上と農業の事業化を優先して支援します。環境再生型農業、栄養に配慮した農業、市場志向型農業による女性、若者、障がい者のエンパワーメントを促進します。また、農業普及員の適切な研修や、教育機関との連携を通じて、需要主導型の効果的な農業・農村開発アドバイザーサービスを推進していきます。

SAAは現在、農業分野において、種子や肥料の供給促進、農業普及サービスを通じた農家の意識向上、農民組織の強化、市場の強化、収穫後管理や品質基準の改善、農業投入財へのアクセスの改善など、幅広い技術支援を行っています。

これまで、官民の農業普及システムと密接に連携することにより、活動重点国（エチオピア、ナイジェリア、ウガンダ、マリ）において、改良農業技術を効果的に提供することができました。こうしたパートナーシップは、更に拡大・発展していくことが期待されます。

また、農業普及活動においては、食料安全保障の4つの側面（手頃な価格、入手しやすさ、利用しやすさ、安定性）に焦点を当てたアプローチを採用し、各家庭が栄養価の高い食料へ持続的にアクセスできるよう支援していきます。

SAA 現地からの声: アフリカの農家と歩み続けて

ウガンダ

SAAのおかげでわたし は仲間の農家を指導で きるようになりました

優れた農法で生計を改善したヘンリー さんのストーリー

ヘンリー・セブヤラさんは、ナカサケ県（ウガンダ）に住む農家で5人の子どもの父親でもあります。SAAのプロジェクトに参加した結果、収量と収入が改善しました。ヘンリーさんはSAAとナカサケ県の共同事業による様々なデモンストレーション圃場のホストに選ばれたのです。

「私は2002年から商業的農業に取り組みはじめました。当時私は豆とメイズをそれぞれ2エーカーの土地で栽培していました。しかし、農作業は大変な労力を伴うわりに、家族を養うには決して十分ではありませんでした。私の実践していた伝統農法では、十分な収量が得られなかったのです。」

しかしある日、SAAの活動するデモンストレーション圃場を目の当たりにし、ヘンリーさんは適切に管理すれば、小さな土地でも多くの収量を得られることを知ったのです。結果としてヘンリーさんは0.5エーカーの土地から600kgの豆、そして1エーカーの土地から2,300kgのメイズを収穫できるようになりました。以前であれば1エーカーから250-400kgの豆を収穫するのがやっとでした。



増えた収入で作物運搬用のトラックを購入した
ヘンリーさん



足踏み式ポンプの使い方を説明するヘンリーさん（右）

「SAAは最善の農業技術、特に気候変動に対応するための技術について学ぶ機会を与えてくれました。また、SAAが私を適切なサプライヤーと繋げてくれたおかげで、私は自分の畑に灌漑設備を導入することができましたし、その後も技術的サポートを得ることができました。灌漑設備のおかげで私は現在、4エーカーの土地を使い年間を通じてトマト、ナス、カボチャ、キャベツを輪作しています。」

「今、私は2エーカーの土地で野菜を栽培し、残りの2エーカーの土地を休ませ、土壌を回復させています。2018年の2度目の作付けシーズンでは、園芸作物だけで514.24ドルを稼ぎ、それを原資に農作物を運搬するための小さなトラックを購入することができました。仲間の農家には往復の運搬にこれを19.17ドルで貸すこともあります。ナミリャンゴ・トウェケンベ農家貯蓄組合に借りていたローンも返済できました。」

適切な農業技術を学び、導入することで、ヘンリーさんは子供たちに教育を与えることができ、さらに、増えた収入で野菜栽培用の農地を拡大させることに情熱を燃やしています。ヘンリーさんには更にこのような展望があります。

「SAAのおかげで、私は気候変動の対応に苦戦する仲間の農家を指導できるようになりました。私のコミュニティでは、気候変動対応型技術の有効性に気付き、実践するようになりました。私は灌漑に関心のある農家にサプライヤーを紹介することもしています。将来的には、野菜の苗を販売したり、土地を購入して農業学習センターを設立したいと思っています。」

重点分野

SAAは、ミッション達成に向け、次の3つの重点分野に取り組みます。

重点分野1

土壌劣化と気候変動に対応した持続可能で強靱な環境再生型農業

SAAは、アフリカにおける強靱かつ持続可能なフードシステムを促進するため、環境再生型農業（RA）を支援の中心に据えています。農業の実践と原則を組み合わせたRAは、生物多様性を保全し、土壌を豊かに、水分保全を改善し、土壌の炭素吸収能力を高めるものです（HCWH、2020）。RAを効果的に実施し、小規模農家の食料、栄養、収入の安全保障に貢献することが期待されます。

RA推進に当たり、SAAは環境保全農業（CA）と総合的土壌肥沃度管理（ISFM）の2つのアプローチを採用しています。

CAは、土壌微生物の活動を活性化し、肥沃度を高め、土壌構造と保水力を向上させ、侵食を抑制します。機械による土壌攪拌を最小限に抑え、被服作物または枯れた植物で土壌を覆い（マルチング）、輪作や間作による作物の多様化を図る持続的な農法です。さらに、CAは、二酸化炭素を有機炭素として土壌に蓄えることで生態系を回復させることをサポートする気候緩和策と考えられています。

ISFMは、無機/有機肥料、土壌改良剤、改良遺伝子資源などを用いた土壌肥沃度管理手法と、それらを地域の条件に適合させるための知見を組み合わせたと定義されています。農場の有機資源を最大限に利用すること、有機物・ミネラル・水を組み合わせた相乗効果を利用すること、経済的に可能な農場の天然資源を利用することなど、いくつかの重要な原則があります。ISFMを採用することで、小規模農家は、肥料や農薬をより効率的に使用し、単位面積当たりの収量を慣行農法と同レベルに維持することができます。さらに、ISFMを実践することで、回復力のある農場管理が可能となり、干ばつの影響や農地拡大の必要性を低減することができます。

SAAは、農業支援の現場において、小規模農家が気候変動の影響に対応できるよう、適応可能な生産技術/農作業など、RAの効果的な手法をいくつか推進してきました。例えば、干ばつに強い作物品種の使用、効率的な水管理、有機/無機（化学）肥料の組み合わせ、最小耕起と除草剤の組合せなど、対象地域の農業生態系および社会経済的条件に基づいて、実施されてきました。ただし、農家が複雑な農作業を実施することは考えにくいいため、現場ではよりシンプルな方法を推進しています。

コラム「環境再生型農業」

環境再生型農業（RA）は、主に土壌有機物の損失によって引き起こされる土壌劣化を改善させることを目的としています。土壌有機物の損失は、炭素を大気中に放出することで気候変動を悪化させるだけでなく、作物の栄養素を減らし、自給自足の能力を低下させる恐れがあります。

RAの目的は、農地の健全性を回復するだけでなく、土壌の有機物や生物学的多様性を高めることにより、農地をより肥沃で生産性の高いものにし、ひいては、農家の生計を守ることにあります。食料安全保障や地球温暖化への懸念が高まる中、RAは、持続可能な地球環境保全の道筋となるものです。

RAは耕作地の保全と再生を目的としています。つまり、肥料などの農業投入財を適切に使用し、耕起を制限して土壌への影響を抑え、輪作や家畜の放牧によって生物多様性を保全する生態系に配慮した総合的農業アプローチです。これらは、土壌の化学的・鉱物的組成や土壌の回復力を高め、土壌中に水や炭素を保持できるようにするためのものです。

収穫量の減少や気候変動が地域の経済や環境に深刻な影響を与えているアフリカでは、RAの価値がますます認識され、評価されています。しかし、この革新的な農業モデルを発展させるためには、政府や事業者によるインセンティブが必要です。RAを実践している農家が栽培した作物を高値で購入するなど、積極的な対策が求められています。

重点分野2

子どもから大人まで、健康のための栄養に配慮した農業

栄養に配慮した農業は、栄養価の高い食品、食生活の多様性、栄養強化食品を、栄養不良や微量栄養素欠乏を克服するための中心に据え、栄養を軸に展開する農業開発アプローチです。

世界的に平均寿命が延びるとともに生活習慣が変化し、栄養と適度な運動の組み合わせが病気を減らす予防策として認識されています。

乳幼児期の栄養不足は、その後の身体・認知機能の発達に影響を与えることが医学的に証明されており、栄養が健康な体づくりに重要な役割を果たしていることは明らかです。そのため、WHOやユニセフは、新生児の栄養状態を改善するために「Scaling Up Nutrition (SUN)」イニシアチブを立ち上げ、NGOなどが学校の食生活改善に積極的に取り組んでいます。

SAAは、栄養価の高い作物の栽培と販売を支援する普及システムの強化を中心に、アフリカの農村地域における栄養改善に取り組みます。将来的には、SAA提携大学のプログラムにも、栄養関連の科目が必須となることが期待されます。

また、最も脆弱な人々の栄養状態を改善するため、栄養を軸に支援を展開していきます。これは、農業投入財へのアクセスだけでなく、栄養に関する情報/サービスを提供し、多様な食生活を推進していくことで達成することができます。

食生活における多様性の欠如は、微量栄養素を含む果物や野菜の消費量が非常に少ないアフリカでは、特に問題となります。したがって、生物学的栄養強化作物や栄養価の高い作物の生産と消費といった栄養に配慮した農業アプローチを行う必要があります。Harvest PlusやWorld Vegetable Centerは、生物学的栄養強化作物の品種や栄養価の高い在来作物、子どもの補完食における栄養価の高い製品の使用を促進しており、これらの関連組織と連携することで、支援を強化していきます。

食料生産を多様化し、栄養価の高い作物を採用することは、微量栄養素の消費を促し、特に農村部において、人々の生活・福祉を充実させ、栄養不足改善に大きく貢献します。

栄養学は、小規模農家を対象とした普及活動や、農業普及員育成のための大学プログラム、SAA ニーズ主導型カリキュラム (DDC) にも組み込まれる予定です。

SAAは、栄養に関する目標を強化し、アフリカの健康的な食料生産・消費を促進し、小規模灌漑や収穫物の配送システムを充実させ、家庭菜園を推進します。これらの活動により、安全で栄養価の高い食品を一年中入手できるようになり、アフリカにおける栄養、収入、生活、食料安全保障の向上につながります。また、最も弱い立場にある人々が、多様な食事を持続的に入手できることが期待されます。

重点分野3

ビジネスとしての農業を可能にする市場志向型農業

安定した農業収入は、市場の動向に基づいた生産計画があつて初めて得ることができます。しかし、アフリカの小規模農家にとって、市場は物理的に遠く、生産計画を立てることは困難を極めています。

また、栄養価の高い作物が高値で取引される先進国とは異なり、アフリカの市場でそのような保証はありません。そのため、アフリカの農家は市場の動向を把握し、どの作物が収入増につながるのか自分自身で試行錯誤をする必要があります。

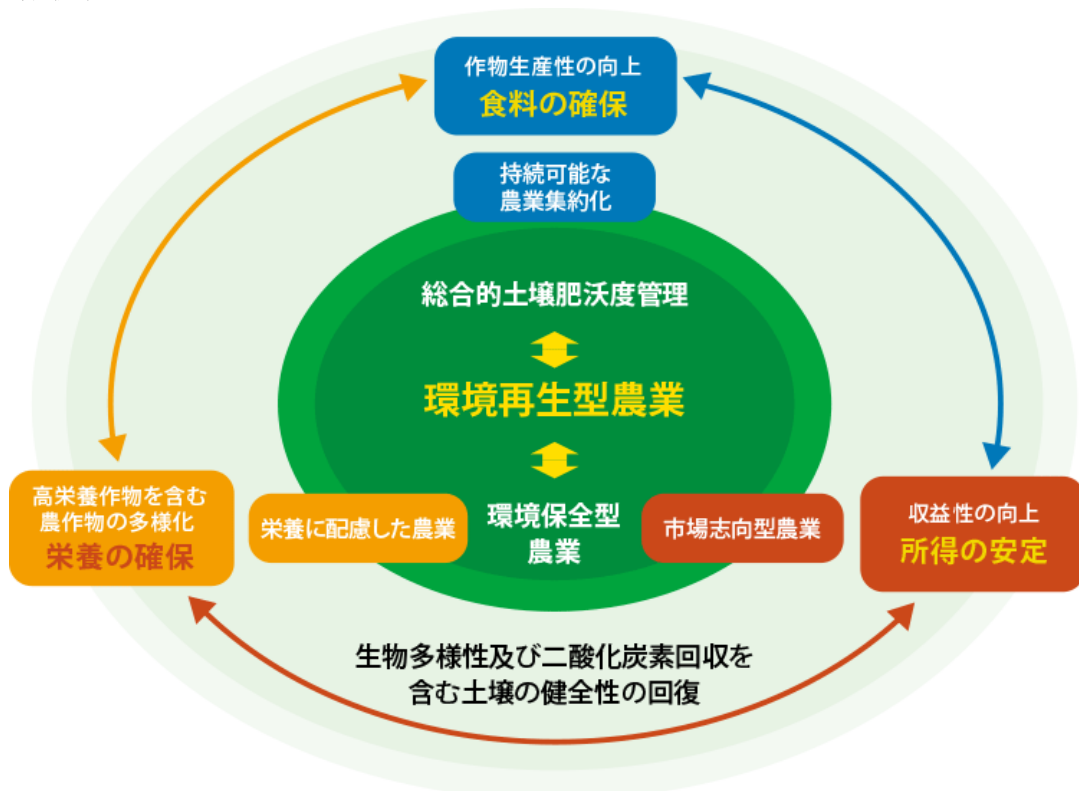
農業普及をより効率的かつ効果的に行うために、SAAでは、民間サービスプロバイダー（PSP）、商品協会のトレーダー／トレーナー（CAT）、コミュニティ・ベース・ファシリテーター（CBF）で構成される、民間農業普及サービス（PESP）モデルを開発しました。このモデルは、農家にとって重要な生産技術、農業投入財、農産物加工、市場アクセスなどのサービスを、必要なときに有料で利用することができます。

SAAは、金融サービスへのアクセスや、他のフランチャイズモデルの採用等により、PESPモデルをより効果的なものに発展させたいと考えています。これにより、良質で手頃な価格の、環境に配慮した農産物の生産を実現していきます。

JICAが開発・実施しているSHEP（市場志向型農業振興）アプローチでは、アフリカ各地の農家が、野菜栽培を中心に市場調査を行い、独自の作付け・生産計画を作成することで、市場のニーズに応えられるようにしています。SHEPプログラムに参加した農家の多くは、収入が2倍近くに増えました。SAAは、JICAとの協力範囲を拡大し、より多くの地域でSHEPアプローチを展開したいと考えています。

なお、SHEPプログラムの実施に当たっては、灌漑施設の整備や灌漑へのアクセスが可能な地域の選定など、農家自身が市場調査と事業の選定を行った上で、取り組んでいます。

新五カ年事業戦略フレームワーク



SAA 現地からの声: アフリカの農家と歩み続けて

ナイジェリア

良質な種子へのアクセス 改善に取り組むグレイス さんのストーリー

グレイス・ヨハナさんが住むナイジェリア・カドゥナ州のMararaba Rido地方行政区では、良質な種子の入手が、小規模農家の課題となっています。この問題を解決するため、グレイスさんはコミュニティ・ベース・ファシリテーター（CBF）として研修を受け、トウモロコシ、コメ、大豆を中心に農業普及サービスを提供しています。研修終了後、グレイスさんは、SAAナイジェリアとカドゥナ州の「アフリカ緑の革命のための同盟（AGRA）」が提供するプラットフォームを利用して、自分の知識やスキルを広く農業コミュニティに伝えることを決意しました。

グレイスさんは、SAAの提供した機会を利用して、ナイジェリアに拠点を置く作物種子生産・開発会社、Value Seeds Limitedの販売員になりました。農家とValue Seeds Limitedの仲介役となることで、農家の要望を把握し会社に伝え、小規模農家が必要とするものを確実に提供できるようにしています。

「私は農業普及員として、作物生産に関するサービスを提供し、コミュニティに貢献していました。SAAナイジェリアとAGRAが実施した共同プロジェクトに参加し、農業バリューチェーンにおける重要な要素をさらに理解することができました。視野が広がり、この新しい事業で収入を増やすことができると実感しています。」



農家に種子を販売し、アドバイスをを行うグレイスさん

「努力が実り、収入が増えただけでなく、品質の高い種子の供給システムに内在する課題の解決にも取り組むようになりました。」

Value Seeds Limitedの仕事の一環として、グレイスさんは種子を調達し、2kgと5kgの袋に適切なラベルを付けて梱包します。また、お客様に代わって注文をしたり、お店を訪れる小規模農家の方々にアドバイスをしたりしています。

戦略アプローチ

戦略アプローチ1

知識の創出

アフリカの農業環境は非常に多様であるため、それぞれのコミュニティや農業生態系に応じて、様々な農業システムが形成されてきました。アフリカ農業において、広い地域に適用できる特効薬のような解決策は存在せず、農業システムや農家のニーズに合わせて技術を適合する必要があります。そのため、「コ・イノベーション」を中核概念とし、知識の創出、パッケージ化、移転と導入を行い、農業コミュニティの参画を得て活動する必要があります。SAAは、農家と協力しながら、課題を把握し、解決できるよう計画していきます。このように、SAAは、農家とともに歩み続けています。

戦略アプローチ2

知識のパッケージ化

SAAは、改良農業技術の実演を農家の畑で行うことで農業普及に取り組んできましたが、その大部分は、標準化した技術パッケージを用いて推進してきました。改良農業技術の実演は、市場アクセスがある程度良好で、リスクの低い農業生態系において、比較的裕福な小規模農家を対象に行われてきました。効果的な技術パッケージを選別し、一つの農作物につき、最大で2つのパッケージを導入しています。

技術をパッケージ化する際には、播種、除草、施肥のタイミングなど、収穫量を左右する様々な要因を考慮する必要があります。また、標準化したパッケージは、簡潔で分かりやすいアプローチであるべきです。標準化したパッケージを、従来のリスクの高い方法で栽培されている畑で展開すると、生産性が大幅に向上します。農家のニーズに合わせて、より柔軟な技術パッケージの導入を目指していきます。

SAAの現在の普及モデル（FLP、CBSM、APEC、PESP、CSIA、SDDC）の統合は、すべての重点国のコミュニティレベルで推進する必要があります。モデルの統合による相乗効果を生み出すためには、実施エリア（影響を評価する最小単位）ごとに、バリューチェーンに沿ったモデルの運用がされる必要があります。

各エリアで単体の普及モデルを実施するなど散発的な活動では、大きなインパクトを得ることは困難です。そのため、SAAは、実施エリアを絞り、十分に統合したモデルを採用し、農民の包括的な生活改善を目指していきます。ウガンダのワンストップセンター（OSCA）、マリのポストハーベスト&商業取引センター（PHTC）、ナイジェリアのアペックス協会、エチオピアのバリューチェーンセンター（VCC）などにおける統合的アプローチの例を参考により多くのコミュニティでの展開を目指します。

戦略アプローチ3

知識の移転と導入

小規模農家への農業普及活動は、モバイル機器、インターネット、放送技術などのICTツールの利用が増えています。これは、農業省の普及員の数が限られていることと、一部の国では農業普及システムが脆弱であるために、必要な情報や知識を農家に届けることができないという問題があるためです。

SAAは、2020年6月以来、スマートフォンや携帯電話を通じて、必要な農業情報を農業普及員や農民グループのリーダーに届ける「e-エクステンション・プラットフォーム」の構築に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の終息後に重要な役割を果たしうるこのプラットフォームは、農業バリューチェーンにおけるあらゆる関係者を結びつけ、小規模農家、農業普及員、市場関係者、ディーラー間の情報格差を縮小することができます。

当初、新型コロナウイルスによるロックダウンの影響を軽減するための手段として導入されましたが、より多くの普及員や農家が利用できるよう、e-エクステンション・プラットフォームを更に拡大していく予定です。

このプラットフォームの目的は、農業普及システムの支援だけではありません。農業生産における土壌や病気の診断アプリを導入したり、農業投入財や製品の販売・購入にも利用することができます。農業のデジタル化により、小規模農家はこれまでにないサービスを受けることが期待されます。アフリカの農村部では携帯電話やスマートフォンの普及率が低いため、当面は新しいものの好きの若者世代を中心にデジタル化が進んでいくと思われまます。実際、SAAは、アフリカの若い農家にe-エクステンション・プラットフォームのメリットをアピールし、彼らがe-アグリビジネスの立ち上げに興味を持てば、積極的に支援していく予定です。

アフリカ大陸全体を対象とする農業教育ネットワークの開発など、デジタル化による遠隔学習を通じて、知識の移転と導入が今後さらに加速していくと思われまます。

コラム「農家と歩み続けて」

ノーベル賞受賞者でSAA会長であったノーマン・ボーローグ博士は、2006年にバマコで行ったアフリカの土壌に関する最後のスピーチで、「完璧な条件や完璧な種子品種を待つ必要はない。手に入るものは何でも使って、すぐに実行しなさい」と呼びかけました。この言葉は、ボーローグ博士自身の農業開発に対する哲学を要約したものであり、また、SAAプログラムの初期段階の、アフリカの農家の収穫量を2倍、3倍にするための栽培技術はアフリカの研究機関に存在しており、それを利用すべきだという事実を表しています。

博士は2009年に亡くなりましたが、最後の見舞客が有望な農業技術のことを話題にすると、「それを農家の元へ！（Take it to the Farmer!）」とつぶやきました。

最期の伝言ともいえるこの言葉は、それ以来、SAAの不朽の精神となっています。しかし、次の5年間の進むべき道を考えたとき、優れた技術を農家へ移転するという視点は転換期を迎えています。農家との協働とは、一方から他方への関係ではなく、SAAと農業コミュニティ間で知識、経験、技術を平等に共有することです。農家の人々は、SAAが新しい技術を開発するよりずっと長く、畑を耕してきました。彼らは解決策を知っています。ただ、必要な道具や資源が限られているのです。

そのため、SAAの精神は「それを農家の元へ（Take it to the Farmer）」から「農家とともに歩み続けて（Walking with the Farmer）」に進化しました。農家の立場に立って課題を理解し、解決策を共に考えることを表しています。

ソーシャル・フランチャイズ

ソーシャル・フランチャイズは、社会的に有益な企業を支援する手段であり、非営利団体にとっては、事業を拡大・強化するチャンスとなりえます。地域のフランチャイジー・パートナー（民間事業者、若者、女性、障がい者などフランチャイズ契約を受ける側）と協働することにより、リスクや投資を最小限に抑えつつ、新しい市場でビジネスを展開することができるのです。

SAAは、このフランチャイズを農業普及システムに導入し、統合された農業普及モデルを活用しているバリューチェーン・プラットフォームを通じて展開しています。（プラットフォーム：ワinstoppセンター（OSCA）、ポストハーベスト&商業取引センター(PHTC)、アペックス協会、バリューチェーンセンター（VCC）など）

SAAは、ビジネス志向の農民組織、個人農家、関連政府機関、民間企業と協力し、SAAの農業普及モデル展開地域でフランチャイズの導入を試みています。

また、他のバリューチェーン関係者が参加することにより、相乗効果が生まれ、SAAのミッションや目標実現によりつながることが期待されます。SAAとフランチャイズ契約を締結したパートナーは、SAAの活動地域で製品や技術を紹介・販売する権利や、SAAのブランド名を使ってサービスを提供する権利を取得。その対価として、ロイヤリティを支払う事業者もあります。

このように、フランチャイズを導入することで、SAAの管理下において、より多くの農業関係者に改良技術へのアクセスを提供することができます。また、他のバリューチェーン関係者には、研修や連携の機会を提供することが可能となり、農業普及員、学生、農家、農民組織への支援を拡大することができるのです。

コラム「ソーシャル・フランチャイズ」

ソーシャル・フランチャイズは、フランチャイズ・ビジネスの原理を用いて、利益ではなく、共通の社会的課題の解決を目指す手法です。新しいビジネスをゼロから始めるよりリスクが低く、持続的で費用対効果が高いというメリットがあります。

フランチャイザー（フランチャイズ契約を提供する側）は、共通の関心や目標を持つ社会的企業に、会員ネットワークに加入する機会を提供します。フランチャイジー（フランチャイズ契約を受ける側）は、フランチャイザーの専門的なアドバイス、リソース、知名度などの恩恵を受けながら活動することができます。活動の目標は、フランチャイザーにより管理されます。フランチャイズ・サービスは、有料のものあれば、無料で提供されるものもあります。

ソーシャル・フランチャイズは、特に、健康・農業・教育などの分野で、エンドユーザーへの支援を拡大し、成果を最大化するのに効果的です。フランチャイザーと協働することにより、フランチャイジーは、独立して事業を行う場合に発生するコストを大幅に削減することができます。

フランチャイザーにとって一番の責務は、加盟団体に対する監督義務を果たすとともに、そのネットワークを十分に拡大し、経済的効果を生み出すことです。ソーシャル・フランチャイズは、特に政府機能が不十分な発展途上国において、非常に効果的であることが証明されています。政府や地方自治体の公共サービスの代替ではありませんが、フランチャイズ・ネットワークは、現場の不足を補い、キャパシティービルディングに一役買っています。

また、ソーシャル・フランチャイズは、取り残されたコミュニティやマイノリティーが直面する課題に、持続可能な方法で、取り組むことができる効果的な手段でもあります。ソーシャル・フランチャイズの出現は、国際協力活動にボトムアップ型の起業家的アプローチをもたらし、先進国・途上国双方に大きな変化をもたらしています。女性・若者・障がい者などにとっても、起業家としてのチャンスを提供することができるのです。

SAA 現地からの声:

アフリカの農家と歩み続けて

マリ

SAAのおかげで、私たちの収入 や生活が大きく改善しました

マリの小規模農家サノゴさんと仲間の農 家が生計を改善させたストーリー

アサ・サノゴさん(66)は、マリのディオイラ州Monzoblana村に住む小規模農家です。落花生を含む農産物の生産と加工に従事することに加えて、サノゴさんはケレラ州ディオイラ地域の村の223人のメンバーから成るポストハーベスト&商業取引センター(PHTC)女性グループの代表でもあります。

SAAが実施した農業トレーニングの結果、栽培に関する技術が大幅に向上することを確認しました。

「私はSAAが勧めてくれた落花生の新しい品種に、とても感銘を受けました。実を言うと当初は、村の女性として最初の責任者として、この品種を導入することには消極的でした。しかし、トライアルの後、SAAが正しかったことが証明されました」とサノゴさんは回想します。

「私は収穫の多さと質の良さに驚かされました。SAAの目標は、コミュニティの食料安全保障を達成するのに貢献することと理解していますが、特にこの落花生は私たちのコミュニティの食料基盤となり、私たちの生活を助けてくれています。」

SAAは、地域に適した技術を農家に普及させることに加え、穀むき、ロースター、粉碎機からなる落花生用の農産加工機械を女性グループが入手するのを支援しました。グループは、追加のトレーニングを受け、機械を安全かつ効率的に使用するための十分な知識を身に付けることができました。



サノゴさん(右)と落花生加工機械の使用法を指導するエンジニア

「2か月半の活動期間で、私たちは500kgの落花生を加工し、175,000 XOF(約306ドル)の収益を生みました。SAAは様々な研修を通じ、私たちが力をつけるのを助けてくれました。それは落花生の栽培方法に始まり、適切な農産加工の方法、協同組合としてのビジネスの方法、協同組合のマネジメント、ビジネス計画の立案、開発プロセス、パートナーシップ、マーケティングや契約の方法までに至ります。私たちは、受けたトレーニングに心から感謝し、喜んでいます。トレーニングのおかげで、私たちは自分たちのビジネスをよりよく実践し、経済的な収益性を確保することができたからです。SAAのおかげで、収益と生計が大幅に改善されました。」

横断的分野

パートナーシップの拡大

持続可能な開発目標（SDGs）の一つであるパートナーシップの構築は、「アフリカ開発のための新パートナーシップ（NEPAD 2001年）」と「包括的アフリカ農業開発プログラム（CAADP 2002年）」によって推進されています。この2つのプログラムは、アフリカの加盟国政府が、農業活性化と貧困削減に取り組む上で非常に重要な指針となっています。

SAAは、アフリカ農業に包括的な変容をもたらすことを目指しています。そのためには、現地政府・民間関係者と農業普及アドバイザーサービスにおけるパートナーシップを強化し、小規模農家が農作物の生産性や所得を持続的に向上できるよう支援していきます。SAAのパートナーシップ戦略は、農業バリューチェーン全体における総合的な協力関係の構築を、持続可能な方法で達成することです。そのアプローチは以下のとおりです。

- a) アフリカ農業の変容において、SAAが果たすべき役割を再確認し、更に拡大する。
- b) 農業技術の専門知識とスキルを強化する。
- c) 財源の多様化に向け、様々な資源を動員する。
- d) 分野横断的な課題を特定し、あらゆる意思決定において主流化する。
- e) ネットワークを強化し、SAAの農業普及活動を、活動国や地域パートナーの優先課題に一致させる。
- f) SAAの活動国間における対話をより円滑にし、協力を促進する。

農業普及活動は、作物の生産から収穫後処理・農産加工、マーケティングまでバリューチェーン全体に拡大しています。その結果、多くの関係者が食料・栄養の安全保障に関与しており、官民でパートナーシップ（PPP）を構築する例も増えています。

研究機関や大学と提携することにより、先進的な技術を、小規模農家向け農業普及システムに導入することが可能となります（特に、気候変動対応型の農業など）。また、分野横断的な課題（栄養、ジェンダー、ICTなど）に取り組む場合、他の組織やNGOと連携することでより効果的な活動を展開することができます。

SAAは、1986年の設立以来、現地農業省と密接に連携し、農業普及に必要な普及員を一定数確保し、草の根的な普及活動を展開してきました。

また、各国の研究機関・農業普及機関・国際農業研究センター（IARC）・民間企業などと協働し、研究開発成果を小規模農家に提供。国際機関・地域組織・二国間援助機関・慈善団体・国際NGOなど開発パートナーとも連携を深めてきました。

さらに、SAAは、農業普及活動や小規模農家の農業開発の支援を強化するため、官民パートナーシップを模索してきました。2021年からの新戦略の目標を達成するため、技術分野における連携をより一層強化していきます。連携パートナーとしては、(a)現地政府、(b)国内外の研究機関、(c)民間財団、(d)二国間・多国間ドナー、(e)非政府組織、(f)民間企業、(g)農家などが考えられます。

女性、若者、障がい者

SAAは、ジェンダー平等、女性のエンパワーメント、そして若者・女性・障がい者の農業への公平な参加を推進しています。また、アグリビジネスにおける事業開発の機会を創出し、彼らの生計向上を図ります。具体的な目標は以下の通りです。

- ・ アグリビジネスにおける女性、若者、障がい者のニーズと雇用機会について、家庭・コミュニティ・政策立案者の間で認識を共有する。
- ・ 単調な重労働を軽減するため、適切な技術を特定・促進する。
- ・ 収益性の高い農業とアグリビジネスを促進するため、農業普及員、女性、若者、障がい者のキャパシティビルディングを行う。
- ・ アグリビジネスにおける女性、若者、障がい者の起業家能力や競争力を向上し、経済的機会を高める。
- ・ 女性、若者、障がい者が、技術やマーケットなどの情報に容易にアクセスできるよう、e-エクステンションやe-ラーニングなどICTアプローチを推進し、ビジネスチャンスを拡大する。
- ・ 現地で展開するアグリビジネスにおいて、女性、若者、障がい者が協働できるようネットワークやパートナーシップを強化する。

女性は、サブサハラ・アフリカの農業において、労働力の50%を占めており、その中心的な担い手であります（FAO 2017）。しかし、男性に比べ、土地・資材・サービス（信用取引や農業研修）などの農業資源・資産へのアクセスや雇用機会が乏しい傾向にあります。その結果、女性が管理する農地の収穫量は、男性が管理する農地よりも低くなる傾向があります。FAOによると、ジェンダーギャップは、農業生産高だけでなく、食料安全保障や経済成長においても実質的なコストとなっています。

SAAは、その活動においてジェンダーを主流化、女性の参画を奨励するとともに、効果的なモニタリング評価システムを構築しています。特に、女性支援実証圃場（WAD）、女性ベースの村落貯蓄貸付組合（VSLA）、食品加工の女性グループなどの研修を受けた女性を対象としています。

ジェンダー平等はSAAの使命であります。SAAのジェンダー戦略は、小規模農家の持続的な生産と収入向上を通じて、アフリカ農業に包括的な変容をもたらすことを目指しています。このプロセスは、特に農業普及アドバイザーサービスにおいて、政府・民間関係者と密接に連携することで達成することを目指します。このジェンダー戦略により、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントという概念が、あらゆるレベルの意思決定・活動に組み込まれることがより一層期待されます。

アフリカの若者人口は急速に増加していますが、農村部での雇用機会の不足から、都市部へ移住する例が増えています。農業は、まともな生計を立てることができれば、多くの雇用機会を提供することができます。SAAは、農業をビジネスとして発展させることに重点を置いており、農業が若者の魅力ある職業になるよう支援していきます。

また、農業がビジネスとして発展していくと、生産からマーケティング、バックオフィス支援まで、さまざまなスキルが必要になります。農業分野の仕事に必要なスキル習得を目的とした研修には、障がい者の参加も推進される必要があります。

インパクト評価とコミュニケーション

モニタリング評価

SAAは、プログラム全体のデータや情報を収集するため、信頼性が高く一貫性のあるモニタリング評価（M&E）システムを開発しました。これにより、特定の国やプログラム単体のインパクトだけでなく、地域全体・プログラム全体のインパクトを反映した信頼性の高いデータを集計し、提示することができるようになりました。M&Eハンドブックには、SAAの多様なプログラムやプロジェクトにおいて、モニタリング、評価、報告、学習を実施する際のガイダンスが記載されており、エビデンスに基づく意思決定、説明責任、報告、適応管理を促進しています。

SAAは、モニタリング評価システムを日々の仕事に組み込み、農家の経済的・社会的エンパワーメント促進の一助となることを目指しています。

資源動員

SAAは1986年の設立以来、日本最大の慈善団体である日本財団から安定した支援を受け、活動を展開してきました。また、その他のドナーから提供された資金に関しては、1つの活動プログラムにまとめられ、統合された予算計画の中で、効率的かつ効果的に活用してきました。

今回の計画では、SAAは従来のドナーと新規ドナー双方に働きかけ、資金調達の多様化を図ります。理事を含むSAAの全スタッフは、新たな資金調達の機会を模索する役割を担うこととなります。また、SAAは、パートナーシップ構築と新規ドナーの開拓に特化した新しい部門を創設します。この部門は、東京本部、カントリー・ディレクター、SAAスタッフと連携し、それぞれの専門性・ネットワークを活用し、新しい資金源の開拓を行います。

コミュニケーション戦略

SAAは、コミュニケーションが、活動の成果を組織内外に広め、世界・地域における認知度を高めるための重要な手段であると認識しています。コミュニケーション戦略は、SAAの重要な広報活動であり、ステークホルダーとの関わりを一層強化する目的があります。

SAAのパートナー、外部の人々、共に活動する小規模農家に向け、強力で認知度の高いブランド・アイデンティティを発信するため、SAAの公式コミュニケーション・出版物・販促資料に関する規範を定めたコーポレート・コミュニケーション・ガイドラインが策定されました。対象者に適したコミュニケーション方法とメッセージ選択の重要性が記載されており、ソーシャルメディアでSAAのプレゼンスを向上することが期待されます。現行の月刊ニュースレターは、東京本部と現地オフィス双方の主要な活動について、スタッフ全員に周知するため継続して発行されます。これらのコミュニケーション戦略を円滑に推進するため、理事長直属のコミュニケーション・オフィスを設置し、タイムリーな情報発信ができるよう努めていきます。

SAAの歩みと活動実績

SAAの歴史

SAAは、日本の慈善事業家である笹川良一氏、ノーベル賞受賞者のノーマン・ボーローグ博士、ジミー・カーター元米国大統領によるアフリカ農業イニシアチブ「笹川グローバル2000（SG2000）」の設立を受け、1986年に創設されました。同年、ボーローグ博士率いるSAAは、カーター大統領が議長を務めるカーターセンター「グローバル2000プログラム」と、笹川良一氏が会長を務める日本財団から、全ての農業活動に対し資金援助を受けました。SG2000プログラムは、現地の農業普及サービスと密接に連携することで、現場の運営効率を高め、人的資源を確保してきました。各国政府は、最前線で働く何千人もの農業普及員を共同プログラムに貢献させ、一部資金も提供しています。

SAAの活動実績

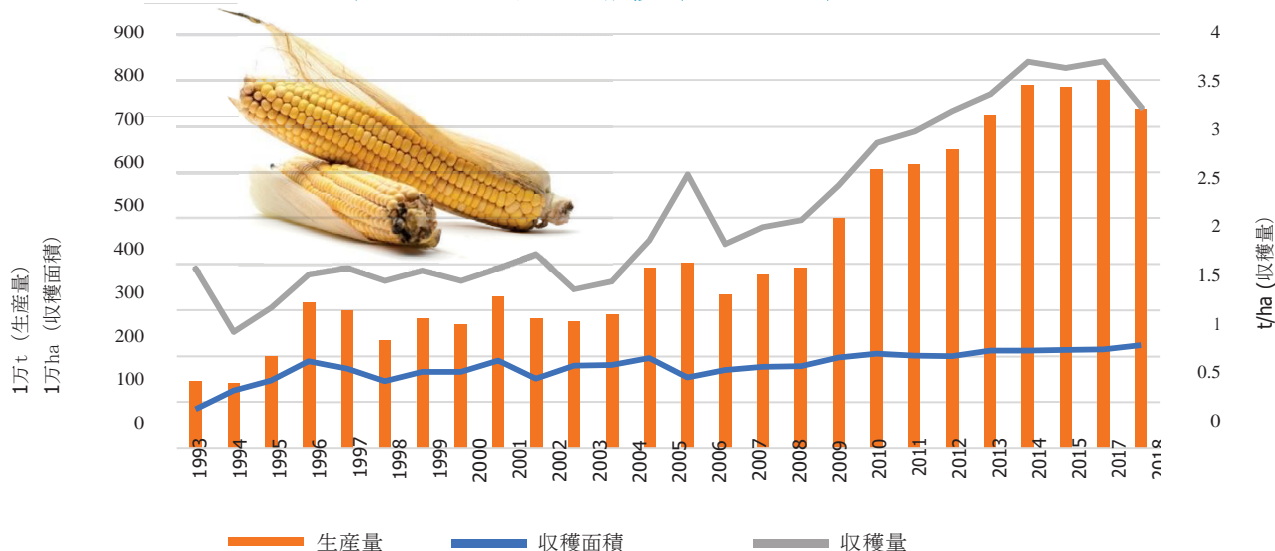
1986年以来、SG2000の農業プログラムはアフリカ17カ国で実施され、2006年に、エチオピア、マリ、ナイジェリア、ウガンダの4カ国が活動重点国となりました。SG2000の国別プログラムでは、SAAが設置を支援した実演圃場は、50万か所以上に上ります。さらに、各国政府は300万以上の生産圃場（0.25～0.5ha）において、農業投入財の購入資金を提供しています。

設立時のカーターセンター「グローバル2000」との密接な連携により、SAAの活動は、「笹川グローバル2000（SG2000）」という名称で親しまれてきました。今世紀に入り、「ササカワ・アフリカ財団（SAA）」という組織名が使われるようになりましたが、SG2000という名称は、現地政府や農民の間で、今でも広く記憶されています。

SAAは、現在まで、サブサハラ・アフリカ17カ国で活動を展開し、農業普及と小規模農家の発展、何百万もの農家の生活向上に貢献してきました。現地の農業普及サービスと連携し、生産性の高い農業技術を導入。収穫量の増加と世帯収入の向上を図ってきました。

SG2000の実施国では、アフリカの5つの主食作物（トウモロコシ・コメ・小麦・ソルガム・キビ）の生産量が2,150万トン増加しました。この数字の約4分の1は、改良農業技術、種子と作物適正管理、および適時の植え付けによる生産性向上によるものです。2006年の価格で換算すると、この生産性向上による価値は、年間4億1,500万米ドルと推定されます（FAOSTAT & USDA Agricultural Statistics）。この価値をSAAの活動に直接紐付けるのは困難ですが、SG2000とそのパートナーが、生産性向上を導いた立役者であることは言うまでもありません。特に、トウモロコシに関しては、生産量・生産性ともに飛躍的に向上しました。例えば、エチオピアでは、（1）公的な農業普及システムの確立、（2）農業普及員の能力向上、（3）小規模農家（300万人）への改良技術の移転により、国の食料安全保障と貧困削減に大きく貢献しています。同じ耕作地でトウモロコシの生産量は5倍、収量は3倍に増加。貧困レベルは、5年間で48%から14%に低下しました。

エチオピアのトウモロコシ生産量の推移（1993～2018）



SAAのバリュー

1. SAAは、農家が直面する課題に対し革新的なソリューションを生み出すため、スタッフが活発に情報共有できる、平等で包括的な職場環境の構築に努めます。
2. SAAは、最高水準のインテグリティ（高潔さ）と正直さを持ち、託された公的および民間資金を効率的に活用し、科学的に信頼できる結果を透明性のある方法で公示します。
3. SAAスタッフは、アフリカの農業セクターを発展させ、増加する人口の食料需要を満たし、生活を向上させるというアフリカ人の希望を達成するため、チーム一丸となり、ビジョンとミッションを推進します。

参考文献

Fuglie, Keith; Gautam, Madhur; Goyal, Aparajita; Maloney, William F. 2020. Harvesting Prosperity : Technology and Productivity Growth in Agriculture. Washington, DC: World Bank.

©World Bank. <https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/32350> License:

FAO, ECA and AUC. 2020. Africa Regional Overview of Food Security and Nutrition 2019 -In brief. Rome

FAO, IFAD, UNICEF, WFP and WHO. 2020. The State of Food Security and Nutrition in the World 2020. Transforming food systems for affordable healthy diets. Rome, FAO. <https://doi.org/10.4060/CA9692en>

FAO. 2017. The State of Food and Agriculture: Leveraging Food Systems for Inclusive Rural Transformation. Rome

Health Care Without Harm (HCWH), (2020). The dirt on climate change: Regenerative agriculture and health Care, Canada. <https://noharm-usCanada.org/regenerativeagriculture>

Acevedo Maricelis, Kevin Pixley, Nkulumo Zinyengere, Sisi Meng, Hale Tufan, Karen Cichy, Livia Bizikova, Krista ISAA cs, Kate Ghezzi-Kopel & Jaron Porciello, 2020. A scoping review of adoption of climate-resilient crops by small-scale producers in low- and middle-income countries, *Nature Plants* volume6, pages1231–1241

Our World in Data, Research and data to make progress against the world's largest problems - <https://ourworldindata.org/>

IFPRI. 2020. Agricultural Extension, Global Status and Performance in Selected Countries <https://www.ifpri.org/publication/agricultural-extension-global-status-and-performance-selected-countries>

略語

CA	保全農業
CAADP	包括的アフリカ農業開発プログラム
CAT	村落トレーダー/トレーナー
CBF	村落普及員
CBSM	コミュニティ内種子増殖
CSIA	アグリビジネス向け投資用コミュニティ貯蓄
EA	農業普及員
FLP	農家学習プラットフォーム
FAO	国連食糧農業機関
IARCs	国際農業研究センター
ICT	情報通信技術
ISFM	総合的土壌肥沃度管理
JICA	独立行政法人国際協力機構
M&E	モニタリングと評価
NEPAD	アフリカ開発のための新パートナーシップ
NGO	非政府組織
OSCA	ワンストップセンター
PESP	民間農業普及サービス
PHTC	ポストハーベスト&商業取引センター
PPP	官民パートナーシップ
PwDs	障がい者
RA	環境再生型農業
SAA	ササカワ・アフリカ財団
SAFE	笹川アフリカ農業普及教育基金
SEP	事業改善プロジェクト
SDDC	需要主導型カリキュラム
SDGs	持続可能な開発目標
SHEP	小規模園芸農家強化・促進プロジェクト
SUN	栄養への取り組み拡充ムーブメント
UNICEF	国際連合児童基金
VCC	バリューチェーン・センター
VSLA	村内貯蓄貸付組合
WAD	女性支援実証圃場
WHO	世界保健機関

連絡先

東京

SAA本部

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-15-16 笹川平和財団ビル5階

SAA戦略的パートナーシップオフィス

SAAエチオピア事務所

Gurd Sholla

Daminarof Building, 3rd & 4th floor

Bole Sub-City, Kebele 13

P.O. Box 24135, Code 1000

Addis Ababa, Ethiopia

SAAマリ事務所

Hamedallaye ACI 2000

Rue 335, Porte non codifiée

près du monument Bougie Ba BP E3541 Bamako

Mali

SAAナイジェリア事務所

No.8 KuRA Road

Off Magajin Rumfa Road NassaRAwa GRA PO Box 5190 Kano,

Nigeria

SAAウガンダ事務所

Plot 15A, Clement Hill Road

Ruth Towers, PO Box 6987

Kampala, Uganda

www.saa-safe.org
info@saa-safe.org

©2021 Sasakawa Africa Association

